メッセージ　5

雅歌の第五段階――主の働きにあずかる

聖書：雅 7:1-5, 11-12

Ⅰ．ソロモンは、多くのぶどう園の主であり（雅 7:12）、それらのぶどう園は多くの労苦を必要としました。この時点で、シュラムの女は主の働きにあずかり、神の同労者とならなければなりません。人が神と共に働き、神の同労者となることができるとは、何という特権であり栄光でしょう（Ⅰコリント 3:9. Ⅱコリント 6:1 前半）！

Ⅱ．主の働きにあずかるために、わたしたちは資格づけられる必要があります。わたしたちの資格は、人性の美徳において表現された神聖な命の属性すべてで装備されることにかかっています。その霊は、愛する者の美徳を述べます。このような美徳は、神聖な命における彼女の円熟のしるしであり、主と共に働く資格を彼女に与えます――雅 7:1-5. 参照、Ⅱコリント 1:12. 2:14-17. 11:10 前半. Ⅰテサロニケ 2:1-12：

Ａ．神の唯一の働きは、神ご自身をキリストの中で彼の選ばれた民の中へと造り込み、キリストのからだのために、彼ご自身を彼らと一にすることです――ガラテヤ 4:19. エペソ 3:17 前半. エペソ 4:16：

１．わたしたちは、わたしたちという人が何であるか（what we are）を超えて神に仕えることはできません。パウロは言います、「神の恵みによって、今のわたしがあるのです（I am what I am）……」。パウロは、恵みとしてのキリストで満たされ、構成された人でした。その恵みとは、わたしたちの享受のための神です――Ⅰコリント 15:10 前半。

２．この結果として、パウロは続けて言います、「そしてわたしに対する神の恵みは、無駄にはなりませんでした．それどころか、わたしは彼らのだれよりも多く労苦してきました．しかし、それはわたしではなく、わたしと共にある神の恵みです」――Ⅰコリント 15:10 後半。

３．「わたしではなく、……神の恵みです」は、ガラテヤ第 2 章 20 節の「もはやわたしではありません．キリスト……です」に等しいです。こういうわけで、パウロの中で働いていた恵みは、何らかの事柄やものではなく、生けるパースン、すなわち復活したキリストでした。彼は、父なる神の具体化であり、すべてを含む、命を与える霊と成り、使徒の中に住み、彼のすべてとなりました。

４．パウロの務めは、キリストの豊富を神の恵みとして、彼ご自身の選ばれた民の中へと分与し、彼らに享受させることであり、その結果は召会の建造でした――エペソ 3:2。

Ｂ．雅歌では、主の愛する追い求める者は、「王女」として述べられています（7:1）。これが示しているのは、キリストを愛する者が、キリストの王なる命において円熟に到達し、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を通して、命の中で王として支配すべきであるということです（ローマ 5:17）。

Ｃ．その霊は、福音の宣べ伝えにおいて（サンダルの中の足取り）、彼女の美しさを述べます――雅 7:1. ローマ 10:15：

１．福音の宣べ伝えは、わたしたちが地によって汚されることから、保護し、守ります。召会における神の武具の一部は、「平和の福音を確固とした土台として足に」はく

ことです――エペソ 6:13，15。

2．キリストは十字架上で、神と人の両方に対して、わたしたちのために平和をつくりました。この平和がわたしたちの福音となりました（エペソ 2:13-17）。この平和の福音は、確固とした土台として、すなわちわたしたちの足にはくことのできる備えとして建て上げられました。

3．このようにはくことによって、わたしたちは足元を確固なものとし、立って霊的戦いを戦うことができます。そのような確固とした土台のための平和は、キリストです――エペソ 6:14。

D．主は、ご自身を愛する追い求める者について言います、「あなたの首は、象牙の塔のようだ」。予表において、象牙は復活の命を表徴しています。こういうわけで、彼女の首は、彼女の意志を表徴しており、復活の命に満ちています――雅 7:4。

E．次に主は、彼女の目について語ります、「あなたの目は、バテラビムの城門のほとり、ヘシボンの池のようだ」――雅 7:4：

1．雅歌第 1 章 15 節では、彼女の目は、はとの目にたとえられていました。しかし雅歌第 7 章 4 節では、彼女の目は池にたとえられています。はとの目は霊的ですが、池のような目は、光に向かって完全に開かれており、全宇宙を覆うほどに拡大され、広げられています。

2．これらの池は、出入りするための門のそばにあり、行き来する交わりを表徴しています。行き来する交わりは、わたしたちの広げられた視野（sight）にかかっています。これらは反射する池であり、彼女の目（sight）は光に満ちていることを示しています。

3．わたしたちは、視野が拡大されて、自分のいる所の働きを見て顧みるだけでなく、全地と全宇宙における主の権益をも顧みなければなりません。

F．主は、彼女を高く評価します。なぜなら、彼女の「鼻は、……レバノンの塔のよう」であるからです――雅 7:4：

1．レバノンの塔のような鼻が意味するのは、主の愛する追い求める者が、高度で鋭敏な識別力を伴う霊的な感覚を持っているということです。ピリピ第 1 章 9 節が示しているのは、わたしたちが愚かに他の人たちを愛するのではなく、全き知識と鋭敏な知覚に満ちあふれる愛をもって、冷静に彼らを愛するということです。

2．嗅覚は、円熟した者たちにだけ見いだされます。この感覚は、語られた言葉や見えるものから来るのではありません。それは、わたしたちの霊の中の直覚から来る内側の能力であり、人が良いにおいと悪いにおいを識別することができるようにします。

3．この霊的な直覚は、人が神に属するものを知覚することができるようにします。それは、理屈や論理によるのではなく、自然に生じる、内側にある正確な感覚によります。この感覚は、人が霊的な事柄を識別することができるようにします。

4．同時に、この嗅覚は、人が悪いにおいをも知覚することができるようにします。多くの教えは、間違っているとは考えられず、多くの人には、他の人たちが見いだすことのできる欠点は何もありません。しかし、わたしたちは何かがおかしいと感じます。

5．あなたは主のしもべに、すべてはとても良いと言うかもしれません。しかし、彼は

直ちに、何かが間違っている、何かが真実ではない、何かが主と調和していないと感じます。これは主の働きの保護です。

6．レバノンの塔のような鼻は、その高さと鋭さを語っています。今日、あまりに多くのクリスチャンが、欠けた鼻、あるいは平らな鼻を持っています。それは、神に対するわたしたちの奉仕において、感知する能力としてのキリストに欠けていることを表徴し、わたしたちが祭司職を果たす資格を失わせます――雅 7:4. レビ 21:18。

7．欠陥のゆえに祭司職を果たす資格を失うことが表徴しているのは、キリストに欠けている者はだれでも、食物としてのキリストを神に供給することができないということです――レビ 21:17-21。

G．その霊は、彼女の思考と意図（頭）において、彼女の美しさを述べています。この思考と意図は、神のために強いのです（カルメル――参照、列王上 18:19-39）。またその霊は、彼女の献身のための服従と従順において、彼女の美しさを述べています（彼女の頭の髪――参照、民 6:5 前半）。この服従と従順は、神の栄光のためであり（紫）、王である彼女の愛する方を捕らえます（とりこ）（雅 7:5）。

Ⅲ．「さあ、わが愛する方よ、野に出て行って、村里に宿りましょう。わたしたちは、早く起きてぶどう園に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花が咲いたかを見ましょう．そこでわたしの愛をあなたに与えましょう」――雅 7:11-12：

A．「村里に宿りましょう」――「村里」は複数形です。彼女は、主の寄留する性質を完全にまとっています。その性質は、一つの場所に限定されるものではなく、一つの村里から別の村里へと移るものです。彼女は主に従い、失われた羊と傷ついた者たちを捜し求めます。

B．キリストを愛する者は、自分の愛する方と共に、一つの場所から別の場所へ寄留する（村里に泊まっている）ことによって、全世界（野）のための働きを遂行することを願っています。これは、彼女が主の働きを遂行することにおいて、分派的ではないことを示しています。彼女は働きを開かれたままにします。それは、他の人たちが来て、そこに寄留し、自分も他の場所へと寄留することができるためです。これは、一つからだの中で、一つ働きを保つことです。

C．「早く」は、主の働きにおける彼女の勤勉さを示しています。早朝における働きは、欠かすことができません。怠惰は、主の命の特質ではありません。真に霊的な者だけが勤勉であることができます。勤勉と怠惰の違いは、時間の使い方にあります――エペソ 5:16．コロサイ 4:5。

D．主の働きにあずかることは、単に主のために働くことではなく、主と共に働くことです（Ⅰコリント 3:9 前半．Ⅱコリント 6:1 前半）。主と共に働くためには、わたしたちは命における円熟を必要とし、主と一になる必要があり、わたしたちの働きは主のからだのためでなければなりません。

E．シュラムの女は、ソロモンの配偶者として働き、すべてのぶどう園（雅 8:11）、すなわち全地の諸召会と信者たちを顧みます。これが示しているのは、わたしたちの働きが、一つの都市だけのためではなく、からだのためであるべきであるということです。

F．わたしたちは、全世界のための働きを持たなければなりません。これは、パウロが行

なったことです。パウロは諸地方召会を設立し、それから働いて、彼らをキリストのからだ全体のブレンディングの生活の中へともたらし、彼らがキリストのからだを完全に認識するようにしました――ローマ 16:1-27. Ⅰコリント 12:24-25 前半。

G. 彼女と彼女の愛する方は、諸召会（ぶどう園）の中で勤勉に働きます。それは、他の信者たちが芽を出し、開花し、花を咲かせるためです。主の働きのただ中で、主を愛する者は言います、「そこでわたしの愛をあなたに与えましょう」――参照、雅 7:12。

H. もしわたしたちが愛する方と共に働くなら、わたしたちは主の働く場所において、彼に対する愛を表現すべきです。これは何とすばらしいことでしょう！――マルコ 12:30。

Ⅳ. 初めのわざ（働き）とは、初めの愛から生じる働きであり、また初めの愛を表現します（啓 2:4-5）。わたしたちが主に対する初めの愛で満たされ（4 節）、彼に万物のうちで第一位を与えるとき（コロサイ 1:18 後半）、わたしたちが行なうあらゆる事は、主に対するわたしたちの愛から生じ、主に対するわたしたちの愛を表現します（ヨハネ 21:15-17. エペソ 4:16. Ⅱコリント 5:14-15, 20）：

A. 信者の働きの初めにおいて、彼は、自分の以前の外側の働きの空虚さから救い出されなければなりません。彼は、人が彼にゆだねたことだけを行ない、神が彼のために定めたことを行なっていなかったのです――雅 1:6 後半-8。

B. 信者が自己から救い出されるとき、彼の心は、自分の個人主義的な働きから主の働きへと解放されます。そして、すべての聖徒の状態、最も未熟な信者でさえも、彼の興味となり、彼の関心の対象となります。

C. 今や、主の愛する追い求める者は、主の働きを主ご自身へと結び付けることができます。そして、彼女は自分の働きを主に対する愛の表現とすることができます。

D. 彼女の労苦のすべては、「愛の労苦」であり（Ⅰテサロニケ 1:3）、彼女の心の中に注がれた、神の愛から生じたものです（Ⅰヨハネ 4:19. ローマ 5:5）。

Ⅴ. 「わたしの愛する兄弟たちよ、堅く立って、動かされることなく、いつも主の働きに満ちあふれていなさい. あなたがたの労苦は主にあって無駄になることはないと、知っているのですから」――Ⅰコリント 15:58：

A. 主に対する初めの愛によって動機づけられている働きだけが、金、銀、宝石です――3:12。

B. 主の働きにおけるわたしたちの労苦は、わたしたちの天然の命と天然の能力によるのではなく、主の復活の命と主の復活の力によるのです。

C. そのような労苦は、神の永遠のエコノミーを成就するという結果になります。それは、罪人にキリストを宣べ伝え、聖徒たちに命を供給し、金、銀、宝石としての手順を経た三一の神に対する経験をもって召会を建造することを通してです――12 節。

©2026 Living Stream Ministry